

日本原子力学会 熱流動部会
熱水力ロードマップ 安全評価 SWG 委員会（第 3 回）
議事録（案）

日時：2019 年 8 月 27 日 13：30～17：00

場所：エネ総工研 新橋 SY ビル 7 階 702 会議室

参加者： 安全評価 SWG 委員 : 金沢 (GNF-J)、久保 (原燃工)、小島 (東芝 ESS)、
茶木 (エネ総工研)、山路准教授 (早大)
安全評価 SWG 幹事 : 宇井 (電中研)、鈴木 (エネ総工研)、中村* (JAEA)、
山田 (日立 GE)、秦泉寺 (MHI) 記

※15:00 で途中退席

配布資料

資料 0 議事次第 (案)

資料 1 日本原子力学会 熱流動部会 熱水力ロードマップ 安全評価 SWG/熱水力 SWG 委員会
(第 2 回) 議事録 (案) (2019/2/15)

資料 2 安全評価 技術マップの検討状況の経緯と現状の確認

資料 3-1 安全評価 技術マップ 1 (案)

資料 3-2 安全評価 技術マップ 2 (案)

参考資料 1 熱水力 SWG 第 3 回委員会資料 (2019/7/29)

議事概要

- ◇ 【全般】第 2, 3 回安全評価/熱水力 SWG 合同幹事会以降、熱水力 SWG/安全評価 SWG それぞれが担当する技術マップ (安全評価技術マップ/SA 技術マップ) を改訂するという方針で改訂作業を実施中である。今回、安全評価 SWG にて改訂作業を進めている“安全評価技術マップ”についてはほぼ全事象の記入例が揃ったことから、資料 3-1 の安全評価 技術マップ (案) を題材として、これまでの安全評価 SWG/熱水力 SWG 合同幹事会における検討結果に基づき作成したフォーマットの妥当性及び記載内容の充実度について委員の方々に審議いただいた。
- ◇ 【結論①】フォーマットについては現状で問題ないとの認識で一致した。
- ◇ 【結論②】現状の技術マップでは、異なる事故シーケンス間でも共通の熱水力現象が生じる場合には記載内容が重複している。重複を簡素化するかどうかについては、縮約はあとでもできるので、当面今のままの体裁で残しておく (重複しても、記載していく) こととした。
- ◇ 【結論③】利用者の検索性の観点からは、興味のある事象毎に必要な情報が 1 枚のマップに完結した形で表示されていることが望ましい。技術マップの利用方法として、文書形式のみならず、WEB 形式等による検索性のよい表示方法、データベース化の方法も検討することとした。
- ◇ 【結論④】現状の技術マップでは、リスクの「影響度合い」とモデルの「重要度」に関する考え方が異なっているため、プラント状態毎に「リスク」の定義、指標に対する考え方を明確化すること

とした。(AOO、DBA、SA で何を指標として、L、M、H とするか、場合によっては想定する炉型も明確にする。)

- ◇ **【結論⑤】**モデルの「高度化に向けた展望（知見）」については、現状の記載は簡素に纏められているが、技術マップの価値を決める重要な項目であることから、記載内容を充実化することとした。例えば、モデル等を高度化することによりどのような課題が解決されるのか、どのような範囲のデータまで取得できればどのようなメリットが得られるのか等がより明確に分かるような記載を目指す。また、今後、SA 技術マップの担当者にも当該欄を埋めてもらうこととした。
- ◇ 以上のブラッシュアップを 12 月までに実施する。
- ◇ **【今後のスケジュール】**
 - ・技術マップへの代表事象の記入（～12 月初旬）
 - ・メールベースでの審議（～12 月末）
 - ・安全評価/熱水力 SWG 合同委員会（年明け）

以上